

# 福井県立 恐竜博物館

日本でいちばん

恐竜に会える場所。



「世界三大恐竜博物館」のひとつ、年間100万人が訪れる福井県立恐竜博物館が2000年の開館以来の大幅リニューアル！よりリアルな体験と実物大の恐竜の世界を極めた最新鋭ミュージアムに生まれ変わりました。

勝山市北谷町。1億2000万年前の恐竜が眠るこの地で、国内で採集された恐竜化石の多くが見つかっています。日本初の新種恐竜の発見など、国内の恐竜研究をけん引する発掘現場から数kmの場所にあるのが福井県立恐竜博物館。周囲には約80haの公園があり、恐竜モニュメントやアクティビティは多くの人で賑わいを見せています。

「恐竜王国・福井」のシンボルとして多くの恐竜ファンを魅了し続ける福井県立恐竜博物館は、恐竜化石の学術研究やフィールドミュージアムの機能を備えるとともに、展示規模数と網羅する分類の広さは世界に誇るほど。



恐竜博物館へは、冒険気分が高まる恐竜列車で車内外に施された恐竜たちが、探究心と期待感を盛り上げてくれます。

運行スケジュールや予約方法などは下記お問い合わせ先へ(事前予約制)。

(恐竜列車)えちぜん鉄道: ☎0120-840-508

カナダ、中国の博物館と並び「世界三大恐竜博物館」の一つと称されています。2023年には、開館23年で初となる大規模リニューアル。新たに加わった「新館」を中心によりリアルな恐竜の世界が体感できるスポットとしてパワーアップしました。





### 化石研究体験プログラム (新館3階)

研究者たちが化石を発掘してから行う研究プロセスを、3種類の体験を通して味わう。研究現場で使われる道具を使用し化石を削り出す「化石クリーニング」、12種類の化石CTデータを360°の角度から調査する「CT化石観察」。このほか、精巧な36ものバーツからティラノサウルス頭骨を組み上げる「T.rex頭骨復元」と、実際の発掘現場で採掘された岩石から化石を探し出す「化石発見プラス」は、時期により入れ替わり。小学生以上、予約制。

### 恐竜の塔(新館ホール)

ホール中央の、高さ13mのシンボルモニュメント。あしらわれている実物大恐竜は、下から、竜脚類のフクイティタン、イグアノドン類のコシサウルス、イグアノドン類のフクイサウルス、テリジノサウルス類のフクイベナートル、鳥類のフクイブリクス、テタヌラ類アロサウルス上科のフクイアブル。

両脇に設置されたエスカレーターから、恐竜たちの迫力の表情を間近に見ることができる。



## 開館以来の技術と研究の粋を極めた 実物大のリアルな体験

福井県立恐竜博物館を象徴する恐竜といえば、福井で見つかった新種の恐竜5種と1種の鳥類。リニューアルに伴い増設された「新館」では、その恐竜たちが実物大の姿で来館者を恐竜の世界へと誘います。3階建てドームの天井へと伸びるシンボルモニュメント「恐竜の塔」に、スクリーンいっぱいに古代生物たちが動き回る「3面ダイノシアター」。1億2000万年前の勝山・北谷の躍動感が広がります。

新館には、研究者さながらの研究体験ができる最新鋭設備のラボも新設。実際に研究員が行う化石の見極め、クリーニング、最新機器でのCTデータ観察、復元といったプロセスに触れ、世界に誇る研究技術の粋を体感できるのは、30年以上に渡り国内外随一の恐竜研究を行ってきた同館ならでは。映画のワシントンのようないつも3つのラボで、本格的な研究体験を2時間かけて味わいます。

ようこそ、  
恐竜の棲む森へ。

立  
新

3面ダイノシアター(新館特別展示室)  
約900m<sup>2</sup>の特別展示室では、高さ9m、幅48mのコの字型巨大スクリーンを設置。1億2000万年前の中生代にタイプスリップしたかのような大迫力の映像を楽しめます。

# 恐竜

## 日本随一の発掘フィールド「恐竜王国」から つなぐ世界

これまで累計1200万人以上を魅了してきた本館常設展示室では、展示物を更新し、恐竜研究や情報発信の拠点として飛躍のランナップに。博物館の顔として人気を博すティラノサウルスロボットの角は装いを新。囲んでいた壁を取り払い、アジアを代表する恐竜2体の全身骨格を両脇に配置しました。ティラノサウルスの迫力に加えて、肉食恐竜のタルボサウルスが今にも草食恐竜のサウロロフスに襲いかかるかのような臨場感が、目前に迫ります。

常設展示室全体の恐竜骨格標本も、44体から50体に数を大きく増やしました。人気のスコミムスなど、これまで展示されていなかった

分類の骨格を追加し、展示室が恐竜図鑑に。

また、日本初となる実物ミイラ化石の展示を追加。「レオナルド」と呼ばれるブラキロフォサウルスのミイラ化石は、皮膚や筋肉、腱など、当時の様子を生き残し、ギンヌップ登録にも至った希少な化石。恐竜ファンならずとも必見です。

世界の恐竜研究は前進し、続けています。今回のリニューアルでは、最新の研究内容にあわせて、ティラノサウルスやその他恐竜たちの骨格や姿勢、ジオラマの植物や古生物の変更など、至る所に細かな修正も加えています。日本で最も恐竜に会えるこの場所で、リアルな恐竜たちの世界を観てみてください。



フクイベナートル・  
バラドクサス

日本で発掘される恐竜化石のほとんどは各バーンばらばらで発見されるのですが、この化石は全身の70%が固まって発掘された珍しいものです。保存状態がよかつたため、リニューアル前の休館時期にCTにかけての研究が進み、脳模型の展示を見ることができます。2007年に発掘、2016年に学名がつけられた、小型の獣脚類です。



フクイラブトル・キタダニエンシス

日本で初めて新種の恐竜として命名された肉食恐竜。1989年に発見し、2000年に学名がつけられました。全長4.2mで、前足のかぎ爪が特徴です。



### 福井は30年来的「恐竜王国」

恐竜王国の起源は、1982年に勝山市北谷町杉山の手取層群で、古代ワニの化石が発見されたことでした。恐竜の存在を確信した研究者の情熱が、現在まで30年以上続く発掘調査を導き、1989年の国内で初となる新種恐竜の発見に至りました。日本で発掘された新種の恐竜13種のうち6種が福井県で見つかり、日本の化石の多くが発掘されています。まさに福井県は「恐竜王国」として、恐竜発掘・研究の拠点となっています。福井県立恐竜博物館は、発掘現場を抱えて研究を行う国内唯一無二の博物館。カナダの「ロイヤル・ティレル古生物学博物館」、中国の「自貢恐竜博物館」と並ぶ「世界三大恐竜博物館」の一つとして、世界に誇る恐竜化石研究と情報発信を行っています。